

弘前城石垣修理

第9回～平成28年度の本丸石垣発掘調査～



▲天守台での発掘作業風景

本丸東側石垣の解体修理に備え、平成28年度は、本来天守が位置していた天守台周辺187㎡と、東側石垣の発掘調査区北端に残る野面積石垣の背面133㎡を発掘調査しました。石垣の発掘調査は本年度で4年目となります。

発掘調査前の天守台上面には、当初径3～7cmほどの玉砂利が敷かれ、その間から石垣石材のような大型の石が一部露出していました(写真①)。発掘調査で玉砂利を除去したところ、大型の石が天守台全体に敷き詰められているのを確認しました(写真②)。天守台には曳屋(ひきや)前まで現存天守が位置していましたが、現況では天守の礎石となるような石を特定できませんでした。

大型の石の層は一段のみで、その下には黒色の盛土層が分厚く堆積しています。この盛土層の掘削を進めたところ、深さ約130cmの地点から、ガラス瓶など明治時代以降の遺物が多数出土しました(写真③)。このことは、少なくとも深さ130cm地点より上において、明治時代以降に石垣の積み直しが行われていることを示しています。記録に残る明治～大正時代の石垣修理の際、天守台上部は全域に渡って積み直されていたのです。

一方、東側石垣北端の野面積石垣は当初、江戸時代の石積がそのまま残っているものと推測されていました。しかし発掘調査により、上から2石目までは明治時代以降の積み直し、3石目より下は慶長16年(1611)の築城から元禄までの間に積み直した石垣であることが判明しています。



◀①発掘調査前の天守台



◀②石垣石材のような大型の石が敷き詰められた天守台



◀③天守台盛土層からのガラス瓶破片出土状況



◀発掘調査委員会の現地指導…本丸東側石垣北端・野面積石垣の調査区で、専門家たちから調査に関する指導をもらっている様子。

▶現地説明会の様子…11月23日に一般向けに調査成果の現地説明会を開催。前日から降り続く雪により足元の悪い中、30人が参加しました。



※弘前城本丸石垣修理事業について、詳しくは下記 URL をご覧下さい。

<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/ishigaki/index.html>

■問い合わせ先 公園緑地課弘前城整備活用推進室(弘前公園緑の相談所内、☎33・8739)